

Accuphase

MONOPHONIC POWER AMPLIFIER

モノフォニック・パワーアンプ

M-6000

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属の「お客様カード」に必要事項を記入の上、お早めに(なるべく10日以内に)ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

※「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは16ページをご参照ください。

※「品質保証書」はサービスサポート時に必要となりますので大切に保管をしてください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品を確認します

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| ●取扱説明書(本書) …………… 1冊 | ●お客様カード …………… 1枚 |
| ●安全上のご注意 …………… 1冊 | ●目隠しシール …………… 1枚 |
| ●お客様情報の取扱いについて …………… 1枚 | ●AC電源コード(2m) …………… 1本 |

目 次

付属品を確認します 表紙裏頁

1. ⚠ 警告 安全上必ずお守りください 2

 ⚠ 注意、使用上の注意 3

2. 各部の名前 4

 フロントパネル リアパネル 4

3. 接続図 5

4. 各部の動作説明 6, 7

5. ブリッジ接続 8~10

 ブリッジ接続に切り替えた時 8

 ブリッジ接続するには 9

 ブリッジ接続図 10

6. バイアンプ方式 11

7. 保証特性 12

8. 特性グラフ 13

9. ブロック・ダイヤグラム 14

10. 故障かな?と思われるときは 15

11. アフターサービスについて 16

1. ⚠️ 警告 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V (50Hz/60Hz) 以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属の電源コード以外は絶対に使用しないでください。
- 付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。通風が悪いと機器の温度が上り、火災や故障の原因となります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)を置かない。

■火災又は感電を防止するために、雨がかかる場所又は湿気のある場所では絶対使用しない。

■トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 内部に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

※電源コードをコンセントから抜かないと、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

※万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

⚠ 注意

■設置場所について。

必ず水平な場所に設置してください。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる所、極端に寒い所
- 暖房器具の近くなど温度の高い所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

■他の機器と直接重ねて使用しない。

本機の放熱は、左右のヒートシンク及び上下の通気孔による自然対流の空冷方式で行います。ヒートシンクや通気孔をふさいだり、M-6000同士または他の機器と直接重ねて使用しないでください。

■スピーカーコード、入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

- RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(-)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となることがあります。
- スピーカーコードの接続が不完全で、コードが外れて本体シャーシや入・出力端子に触れると、アンプの故障やショック・ノイズの原因となることがあります。

■AC電源コードの接続。

本機は消費電力が大きいため、十分に余裕がある室内のコンセントから直接電源を取るようになっています。

■電源スイッチはプリアンプのボリュームを下げたから切る。

■長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

■電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

■入・出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

使用上の注意

■本機は、一部のプロテクション回路が作動した場合、出力を遮断するとともに、メーターランプが点滅して警告します。

①熱に対する保護動作

設置・動作状況などにより、ヒートシンクが異常な高温になると、温度センサーによりプロテクション回路が働き、出力を遮断します。同時にメーター・ランプの点滅により警告します。この場合、一旦電源スイッチを切り、数時間後ヒートシンクの温度が正常になってから、電源スイッチを入れれば復帰します。ただし、機器の周辺を広くとり通風を良くする等の処置をしてください。

万一、さらに温度が上昇して、トランス内部の温度が設定値を超えると、電源トランスに内蔵されている温度ヒューズが切断し、電源が遮断されます。但し、温度ヒューズが切断すると自動復帰はしませんので、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

②異常入力信号に対する保護動作

DC成分を多く含んだ異常信号が入力された場合、プロテクション回路が働き、出力を遮断します。この場合、一旦電源スイッチを切り、異常信号が入力されないような処置をしてから電源スイッチを入れれば復帰します。

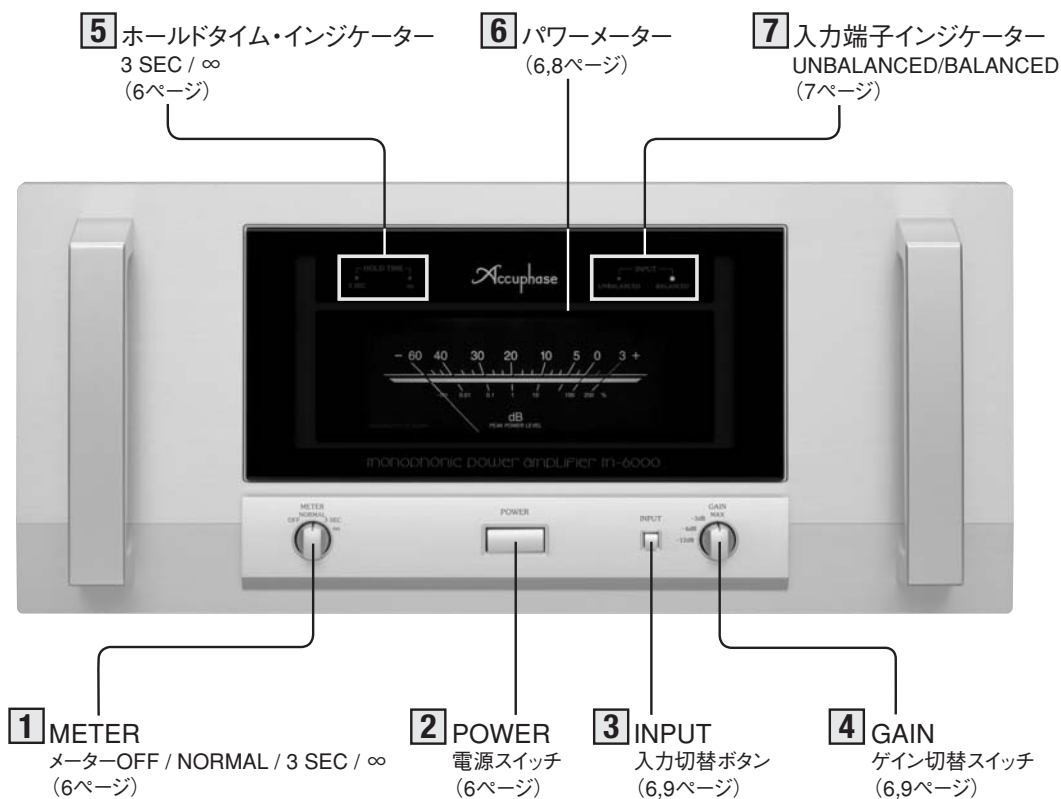
お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。
- フロントパネル面のガラス側面はコーティングされており、白い布で拭くと黒っぽく着色することがありますのでご注意ください。

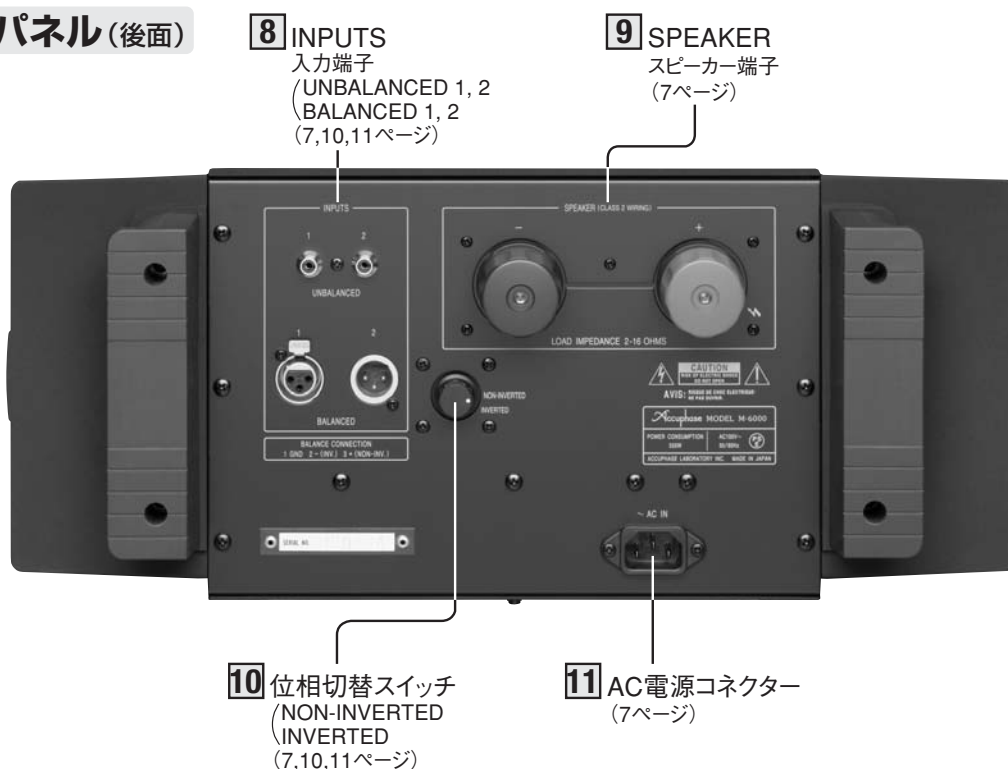
2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目の()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)



リアパネル(後面)

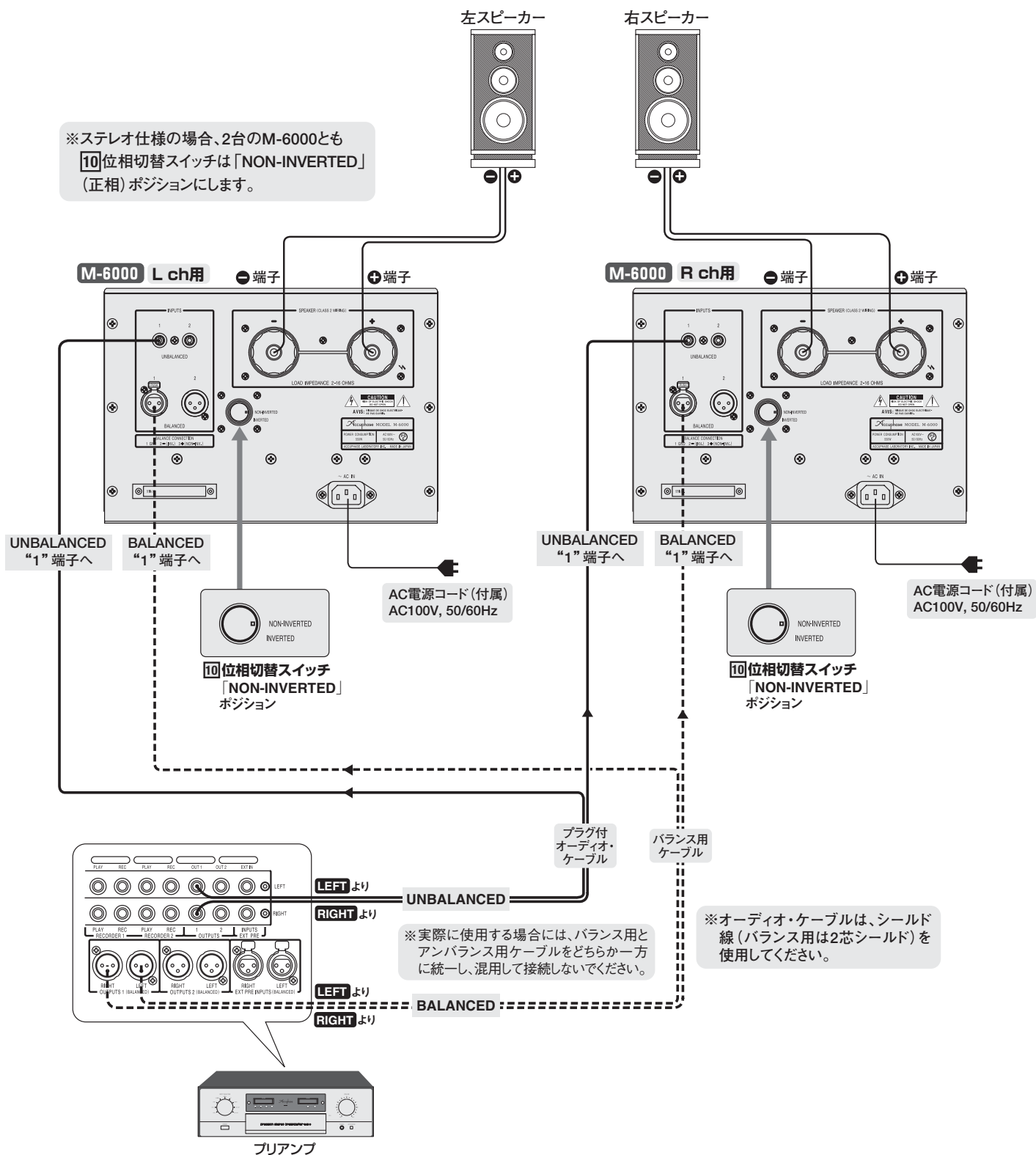


3. 接続図

注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

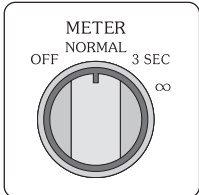
- 注意：
- M-6000はモノフォニック・アンプですからステレオにする場合は2台必要です。
 - 接続するときは、かならず各機器の電源を切り、左・右チャンネルを正しく接続してください。
 - 同一機器同士でバランス用とアンバランス用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

※ステレオ仕様の場合、2台のM-6000とも
10位相切替スイッチは「NON-INVERTED」
(正相) ポジションにします。



4. 各部の動作説明

1 METER — メーターON,OFF/ホールドタイム切替スイッチ



OFF

メーターの動作が停止し、照明ランプが消灯します。

NORMAL

メーターが通常動作となり、照明ランプも点灯します。

[3 SEC]

5 「HOLD TIME」 「3 SEC」 のLEDが点灯します。

3秒間、ピーク値を表示します。表示しているピーク値より大きな値が入ったとき、ピーク値をリアルタイムで更新します。

[∞]

5 「HOLD TIME」 「∞」 のLEDが点灯します。

* 途中で「∞」ポジションに切り替えたときは、その時点からのピーク値表示になります。

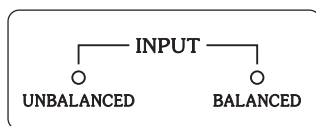
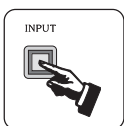
* 電源を切るか他のポジションに切り替えると、表示がクリアされます。

2 POWER — 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約5秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

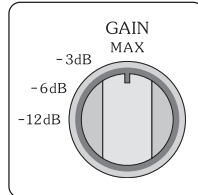
3 INPUT — 入力切替ボタン

入力信号を接続した、8 入力端子を切り替えるためのボタンです。3 INPUT ボタンを押すたびに、7 入力端子インジケータが交互に点灯して切り替わります。



押してバランス入力端子 : 「BALANCED」 LED点灯
再び押してアンバランス入力端子 : 「UNBALANCED」 LED点灯

4 GAIN — ゲイン切替スイッチ



増幅部のゲインを4段階に切り替えることができます。

MAX

通常使用するポジションで、ゲインは28dBです。

-3dB、-6dB、-12dB

MAX時から、ゲインを下げると同時にノイズ成分も下がります。従って、マルチアンプ・システムなどで中・高域スピーカー駆動用として使用し、残留ノイズが気になる場合、またスピーカー・ユニットの能率が高く、他のスピーカー・ユニットとのレベルが合わせにくい場合に大変有効です。

5 「HOLD TIME」 — ホールドタイム・インジケータ

1 METERスイッチで切り替えた、ホールドタイム・ポジション (3 SEC/∞) をLEDの点灯で表示します。

6 パワーメーター

メータースケールは、出力レベルをdB (デシベル) と% で表示しています。2Ω 負荷を基準 (0dB: 600W) にして4Ω 負荷で1/2倍、8Ω 負荷で1/4倍の値が出力になり、正弦波の場合には下記の様な出力値になります。

出力表示 (dB/%)	1Ω 負荷	2Ω 負荷	4Ω 負荷	8Ω 負荷	16Ω 負荷
0dB: 100%	1200W	600W	300W	150W	75W
-10dB: 10%	120W	60W	30W	15W	7.5W
-20dB: 1%	12W	6W	3W	1.5W	750mW
-30dB: 0.1%	1.2W	600mW	300mW	150mW	75mW
-40dB: 0.01%	120mW	60mW	30mW	15mW	7.5mW

このパワーメーターはピークレベル指示型になっていますので、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化している音楽や音声信号のピーク値を表示するように回路が構成されています。したがって、瞬時のピーク値を読みとりやすくするためにメーター指針の立ち上がり時間に比べて、立ち下がり時間が遅くなっています。また、プログラム・ソースにノイズがあったり、パルス性の信号が多く含まれている場合には、聴感上の音量感と多少違った感じになります。

※ブリッジ接続時のメーター指示値は8ページを参照してください。

7 UNBALANCED/BALANCED — 入力端子インジケータ

3 入力切替ボタンで切り替えたポジション (UNBALANCED/BALANCED) をLEDの点灯で表示します。

8 INPUTS — 入力端子

プリアンプの出力を「1」端子に接続します。3 入力切替ボタンで入力端子 (BALANCEDまたはUNBALANCED) を選択してください。

メモ

INPUTS「2」端子はブリッジ接続やバイアンプ接続など、入力信号の送り出しとして使用し、もう1台のM-6000のINPUTS「1」端子と接続します。(9~11ページ参照)

UNBALANCED

アンバランス入力端子です。

BALANCED

バランス入力端子です。

ピンの極性は次のようになっていますので、プリアンプとの極性を合わせて正しく接続してください。



- ① : グラウンド
- ② : インバート(-)
- ③ : ノン・インバート(+)

* バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

9 SPEAKER — スピーカー端子

スピーカー・システムを接続します。

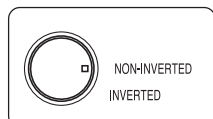
* インピーダンス2~16Ωのスピーカーを使用してください。

* バナナプラグの接続が可能です。

10 位相切替スイッチ

通常は「NON-INVERTED」ポジションで使用します。

「INVERTED」ポジションは、プリアンプとの位相を合わせる場合やブリッジ接続時(9,10ページ)に使用します。



● NON-INVERTED : (5,10,11ページ参照)

入力と同位相の信号がスピーカー端子から出力されます。

● INVERTED : (10ページ参照)

入力と逆位相の信号がスピーカー端子から出力されます。

11 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



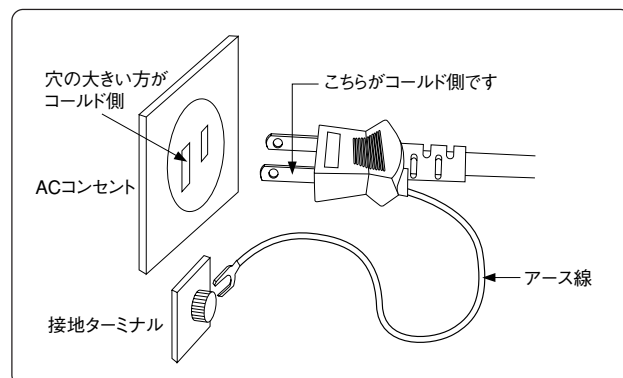
警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

注意

※室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。

※大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

5. ブリッジ接続

M-6000を2台使用して、各アンプに互いに逆位相の信号を入力し、更に大出力(4倍)のモノフォニック・アンプにすることができます。ブリッジ接続でステレオにするには、M-6000が計4台必要になります。



注意

:ブリッジ接続にするときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

ブリッジ接続に切り替えた時

■負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になります。

ブリッジ接続にすると、1台のM-6000負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になります。8Ωのスピーカーを接続したときは、4Ωのスピーカーを接続したときと同じになります。M-6000をブリッジ接続したときは、4Ω以上のスピーカーをご使用ください。

■増幅度について

ブリッジ接続にすると、スピーカーに加わる電圧(増幅度)が2倍(+6dB)になります。

■パワーメーターの表示

ブリッジにすると2台のM-6000のメーターが同一の指示をします。ただしこれは、正弦波のように対称波形入力の場合で、音楽や音声信号のようにパルス性の波形や非対称波形が入力された場合には、メーターの指針は同一の値を示しません。

- スピーカーに加わる電圧が2倍になりますから、パワー値は4倍になります。
- 現在のメーター直読目盛が、インピーダンス8Ω負荷の出力値になります。
- 8Ω負荷に対して、4Ωでは2倍、16Ωの場合には1/2倍になります。

	4Ω負荷	8Ω負荷	16Ω負荷
0dB	1,200W	600W	300W
-10dB	120W	60W	30W
-20dB	12W	6W	3W
-30dB	1.2W	600mW	300mW
-40dB	120mW	60mW	30mW

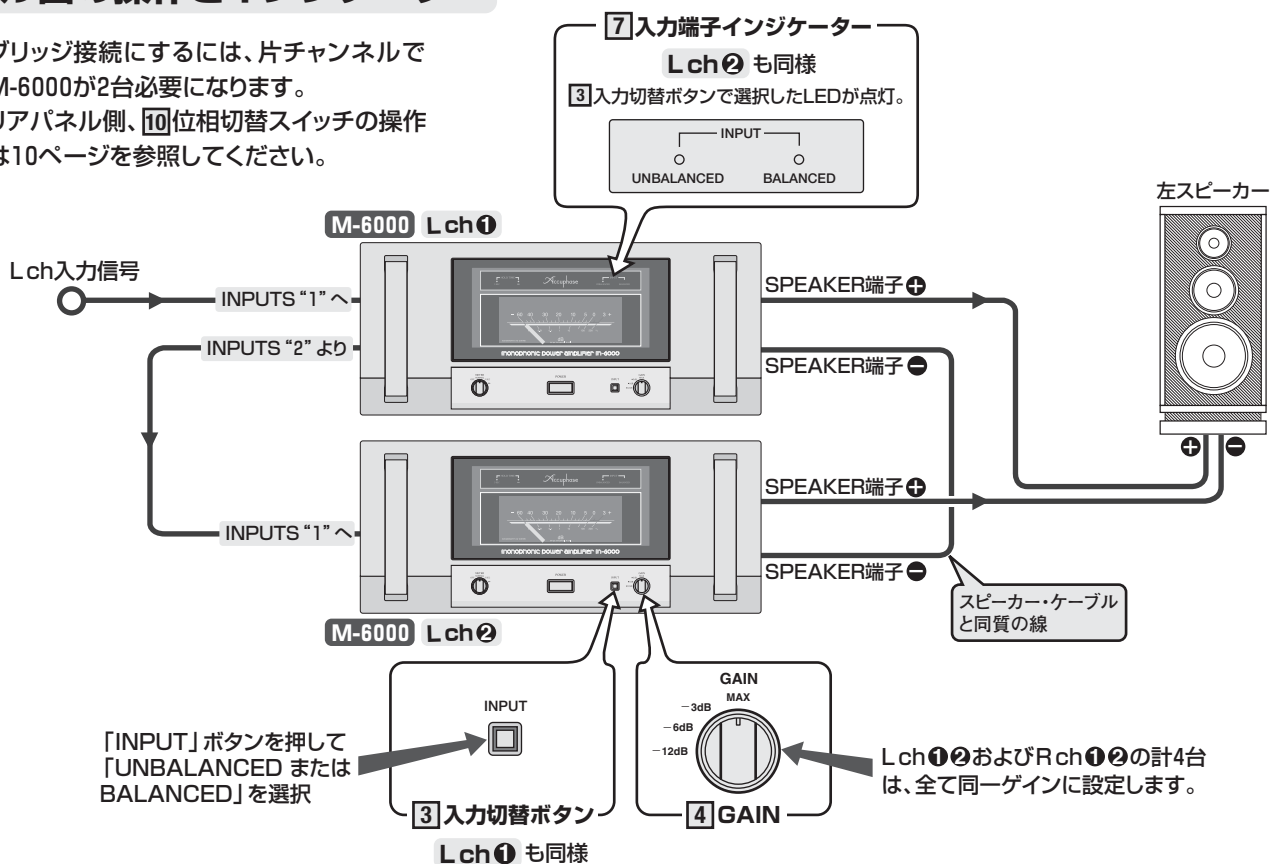
ブリッジ接続するには

左チャンネルの接続を説明します。右チャンネルの接続も同様となります。

- 1 各機器の電源スイッチを切ります。
- 2 プリアンプの左チャンネル出力を、「M-6000 Lch①」の「INPUTS 1」に入力します。
「INPUTS 2」ともう1台の「M-6000 Lch②」の「INPUTS 1」を接続します。
*入力とその送り出しのケーブルは、バランスまたはアンバランスどちらかに統一してください。
- 3 「M-6000 Lch①」の[10]位相切替スイッチを「NON-INVERTED」(正相)にして、
M-6000のSPEAKER端子⊕ ↔ 左スピーカーの⊕ 端子
- 4 「M-6000 Lch②」の[10]位相切替スイッチを「INVERTED」(逆相)にして、
M-6000のSPEAKER端子⊕ ↔ 左スピーカーの⊖ 端子
- 5 2台のM-6000のSPEAKER端子⊖ 同士を接続します。
*音質上、スピーカー・ケーブルと同質の線をご使用ください。
- 6 M-6000の電源を入れ、パネル面[3] INPUTボタンで、入力した端子「UNBALANCED」または「BALANCED」を選択します。
* [7] 入力端子インジケータの点灯で確認します。

パネル面の操作とインジケータ

- ブリッジ接続するには、片チャンネルでM-6000が2台必要になります。
- リアパネル側、[10]位相切替スイッチの操作は10ページを参照してください。



6. バイアンプ方式

⚠注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

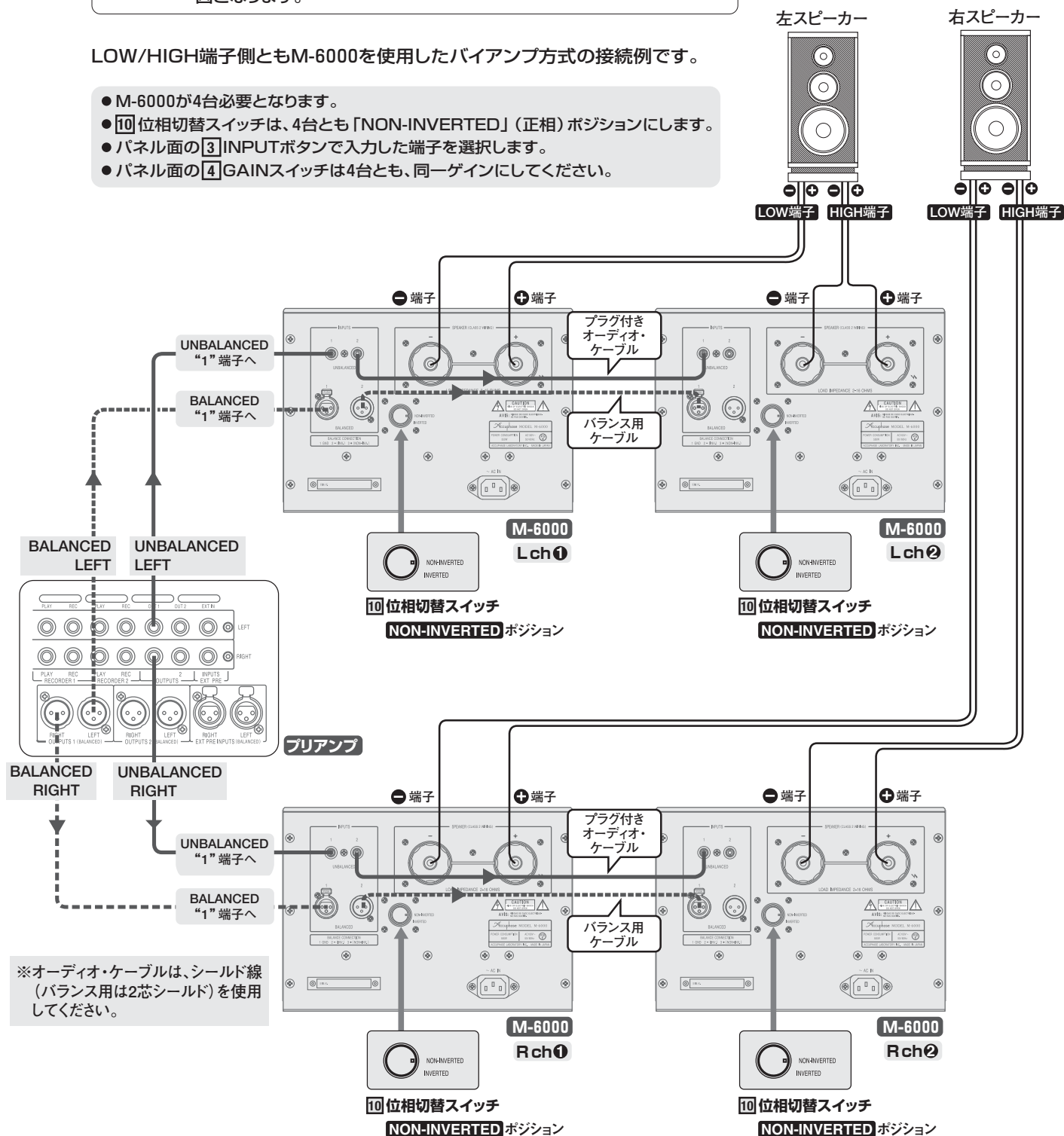
バイアンプ方式は、LOW (低域)側とHIGH (高域)側のスピーカーを、別々のアンプで駆動し、高音質の演奏を楽しむことができます。ネットワークを内蔵し、端子がLOW/HIGH分離可能なバイアンプ対応スピーカーが必要です。

注意：●バランス用とアンバランス用ケーブルは、同一システム内で混用しないで、どちらか一方のケーブルを使用してください。同一機器へ同時に接続して使用すると、アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

※左右スピーカーとも、LOW/HIGHのネットワークを分離します。

LOW/HIGH端子側ともM-6000を使用したバイアンプ方式の接続例です。

- M-6000が4台必要となります。
- ⑩位相切替スイッチは、4台とも「NON-INVERTED」(正相)ポジションにします。
- パネル面の③INPUTボタンで入力した端子を選択します。
- パネル面の④GAINスイッチは4台とも、同一ゲインにしてください。



7. 保証特性

[保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる]

定格連続平均出力(20~20,000Hz間)

1,200W	1Ω負荷(※1)
600W	2Ω負荷
300W	4Ω負荷
150W	8Ω負荷

ブリッジ接続時(M-6000を2台使用)

2,400W	2Ω負荷(※1)
1,200W	4Ω負荷
600W	8Ω負荷

注意:(※1)印の負荷は、音楽信号に限る。

全高調波ひずみ率

0.05%	2Ω負荷
0.03%	4~16Ω負荷

IMひずみ率

0.01%

周波数特性

定格連続平均出力時	20~20,000Hz	+0	-0.2dB
1W出力時	0.5~150,000Hz	+0	-3.0dB

ゲイン(利得)

28.0dB(GAINスイッチ:MAX時)

ゲイン切替

MAX、-3dB、-6dB、-12dB

負荷インピーダンス

連続出力時	2~16Ω
音楽信号時	1~16Ω

ダンピング・ファクター

500

入力感度(8Ω負荷)

1.38V	定格連続平均出力時
0.11V	1W出力時

入カインピーダンス

バランス	40kΩ
アンバランス	20kΩ

S/N(A補正)

120dB	入力ショート
	定格連続平均出力時

出力メーター

-60dB ~ +3dB(dB/%表示)
対数圧縮型
表示消灯機能
ピーク値のホールドタイム切り替え:3秒、∞

電 源

AC100V 50/60Hz

消費電力

180W	無入力時
550W	電気用品安全法(※2)
375W	8Ω定格出力時

注意:(※2)

電気用品安全法の消費電力は、その機種での最大負荷(M-6000は2Ω)で「クリッピング直前出力の1/8」を供給したときの電力値です。

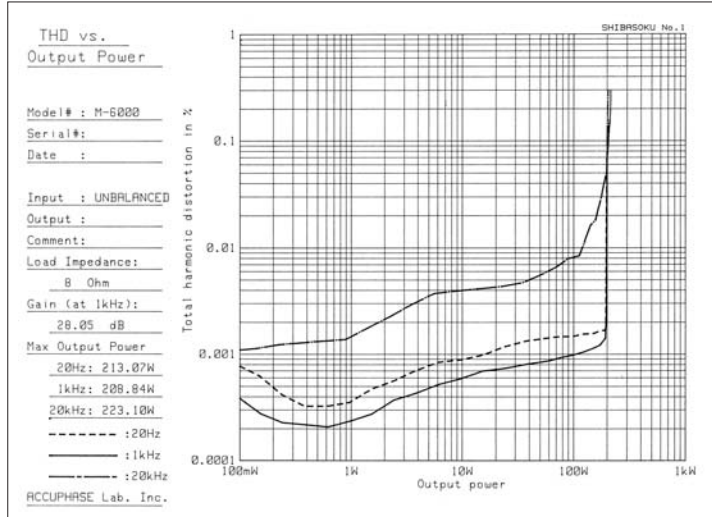
最大外形寸法

幅465mm × 高さ220mm × 奥行500mm

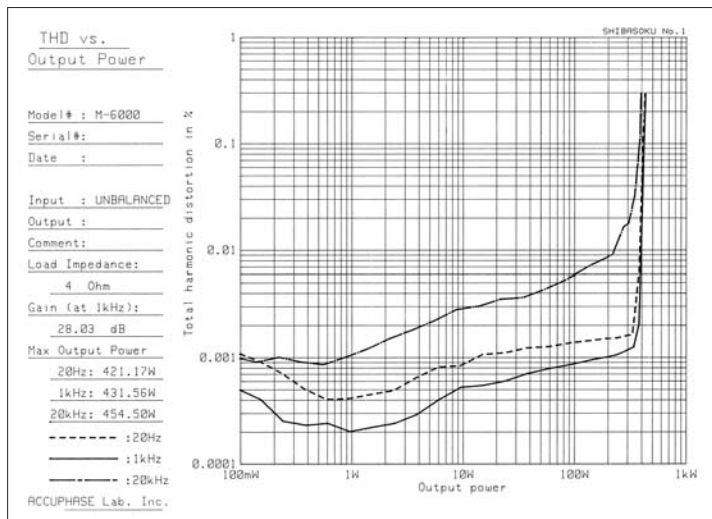
質 量

38.5kg

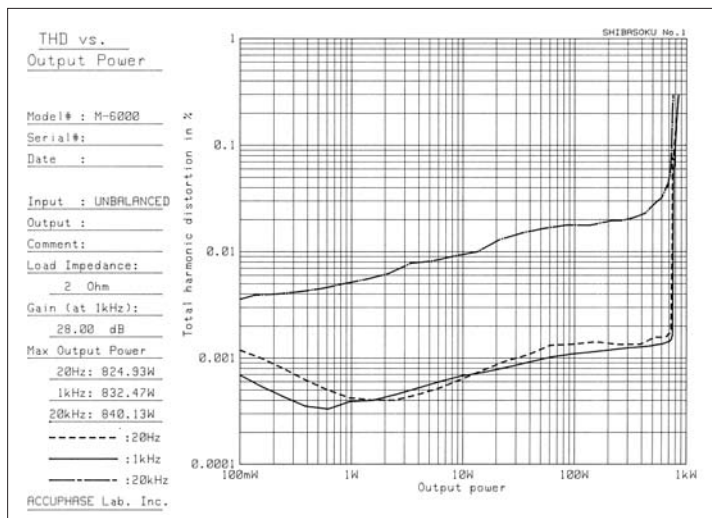
8. 特性グラフ



出力電力／全高調波ひずみ率特性
(8Ω負荷)

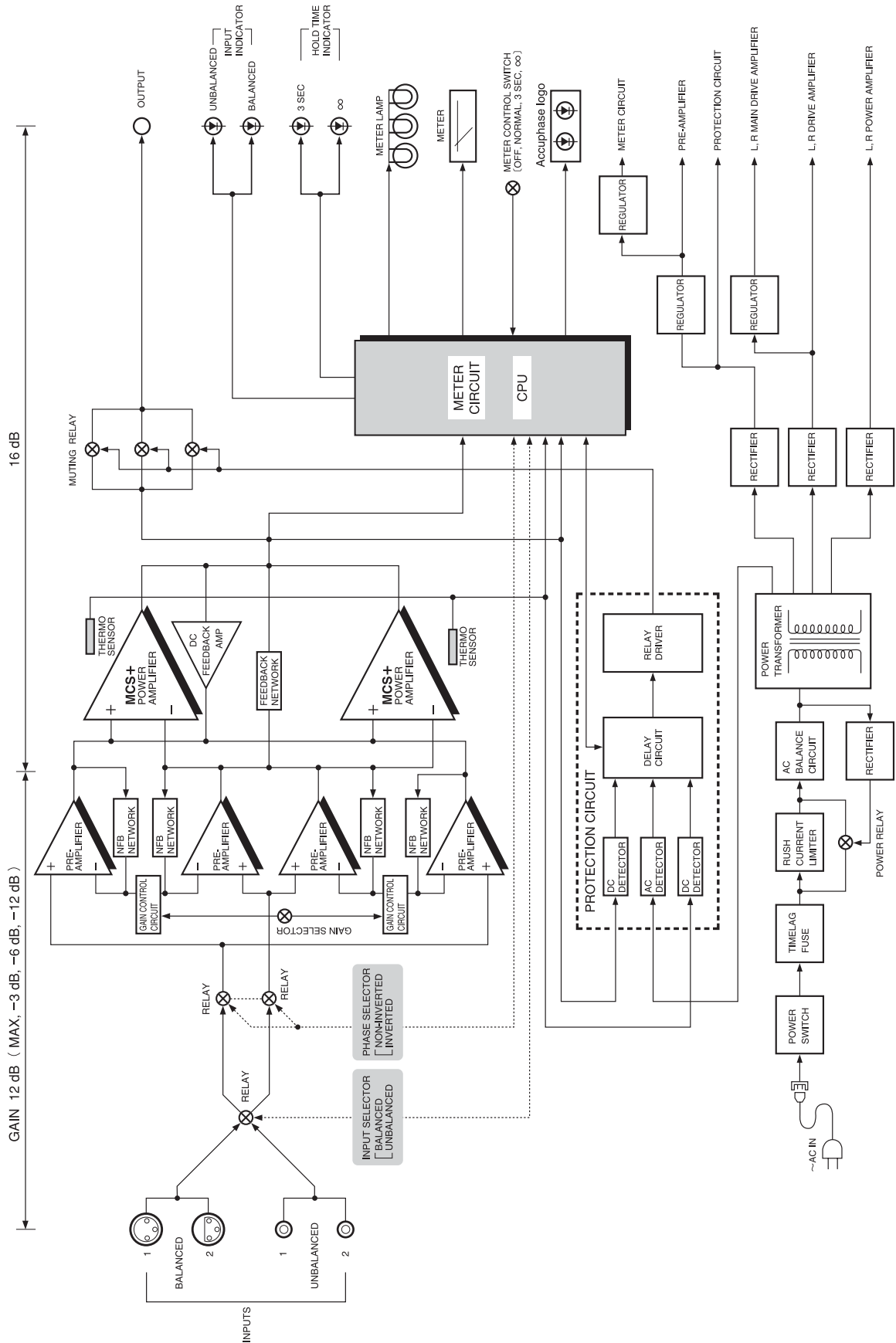


出力電力／全高調波ひずみ率特性
(4Ω負荷)



出力電力／全高調波ひずみ率特性
(2Ω負荷)

9. ブロック・ダイアグラム



10. 故障かな？と思われるときは

故障かな？と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

 **注意**：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない

- 電源コードが抜けていませんか。

音が出ない

- プリアンプなどのソース側の電源は入っていますか。
- プリアンプやスピーカーなどと正しく接続されていますか。
- 入力切替ボタンで入力端子を確認します。

片側のスピーカーから音が出ない

- 接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。
- プリアンプなどソース側のスイッチ類は正しい位置ですか。
(とくにバランス・コントロールの位置)
- スピーカー・コードを左右入れ替えます。
 - ┌ 同じスピーカーから音が出ない …… コードとスピーカーのチェック
 - └ 左右逆の状態になる …… 音の出ないチャンネル側のM-6000やプリアンプ側に原因が考えられます。
- 次に入力接続コードを左右入れ替えます。
 - ┌ 同じスピーカーから音が出ない …… 音の出ないチャンネル側のM-6000に原因が考えられます。
 - └ 左右逆の状態になる …… コードやプリアンプ側に原因が考えられます。

定位感がはっきりしない

- 本機とスピーカー端子の極性⊕(プラス)と⊖(マイナス)は正しく接続されていますか。
- 2台使用(ステレオ仕様)したとき、リアパネル側の位相切替スイッチのポジション(位置)が正しいか確認します。
(10, 11ページ参照)

11. アフターサービスについて

保証書

- 保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
- 「お客様カード」の「お客様情報欄」には付属の「目隠しシール」を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
- 「お客様カード」の登録をされていない場合、購入日は当社からの出荷日が適用されます。
- 保証書登録は付属の「お客様カード」で行われますが、購入が不適切な場合は登録できないことがあります。
- 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
- オプション・ボードやオプション・ユニットには「お客様カード」は付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡ってご使用の場合には、当社の定期的な点検をお薦めします。

その他

- 改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。
Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川 2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理依頼の場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況:できるだけ詳しく

※梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY, INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2-14-10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)

<http://www.accuphase.co.jp/>